



かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより 3月号
平成 25 年 3 月 1 日
横浜市立川島小学校
校長 小池 慎一
TEL 3 7 1-0 7 5 7
FAX 3 8 1-7 2 4 8

夏みかん

学校長 小池 慎一

校長室の前に夏みかんの木が植わっています。

5月に白い花を咲かせて、6月には直径が1cmくらいの緑色の実をつけ、だんだんと大きな実になり、11月頃から黄色く色づきはじめ、中身が熟成して、ようやく食べられるようになりました。食べられるようになったと言っても、味は、「オールドテイスト」な、すっぱいすっぱい「完熟」夏みかんです。



5月に咲いた夏みかんの花

今年は、たくさん実がなる年のようで、全校児童の子どもたちに一人一つずつ配りましたが、それでもまだかなりの数があるので、くぬぎ台小学校の先生にお願いして、くぬぎ台小学校の子どもたちにも配りました。それでもまだ余裕です。

全部で、500個くらいはなったのでしょうか。

たくさんなっているのを見て、もう30年くらい前に小学校2年生の国語の教科書に載っていた「みかんの木の寺」というお話を思い出してしまいました。作者が誰であったかも、すっかり忘れてしまいましたし、手元にその本がないため、細かいところは違っているかも知れませんが、だいたいこんなお話だったと思います。

主人公の男の子はちょっとやんちゃな子です。

その子の住んでいる町にみかんの木が植わっているお寺がありました。

ある日、その主人公の子が、お寺のみかんの木に実がなっているのを見つけました。

近寄ってみると、貼り紙があって「まだ、すっぱいぞ」と書いてあるのです。

主人公の子は、みかんをとって食べようと思って近づいたのですが、その貼り紙を見て、その日はあきらめて帰りました。

しばらくしてお寺に行ってみると、「まだ、まだ、すっぱい」と書いてあるのです。

そうして何日かして行くと「もう少し」と書いてある・・・。

こんなふうなお話です。

お寺の和尚さんと主人公の子の間の直接的ではないやりとりから、なんとなくほんわかとした温かさが伝わってくるお話だと思いながら読んでのように記憶しています。

子どもたちと地域の大人たちの、こんなかわり方もあるのだなと思いながら、正門の朝立ちに行くと、川島の子の笑顔が見え、元気な声が聞こえてきました。